

季刊ジャネット Ja-Net

スリーエーネットワーク

July 2024

No. 110



あばれ祭

Contents

- 4 あちこち日本語ご紹介
千葉県 四街道市
- 5 みんなの“日本語View from the Other Side”
アーミナ マディナ(アフガニスタン)
- 6 教材紹介
「日本語教師をめざす人のための スモールステップで学ぶ 音声」
「日本語教師をめざす人のための スモールステップで学ぶ 教授法」
- 8 インフォメーション

巻頭寄稿

「多文化共生」から「人権保障」へ

上智大学 総合グローバル学部

教授 田中雅子

「日本に来てから、嫌な思いをしたことはありますか」—初対面で、こんな質問をされて、「はい」と答える外国出身者は、まず、いません。しかし、一緒にお茶を飲んだり、食事をしたりしているうちに、少しずつ、学校や職場で受けたいじめや暴力などの辛い経験を

語ってくれようになることがあります。「最初に覚えた日本語は何ですか」と聞いて、「『バカ』『ダメ』『早くしろ』ですね」といった答えが返ってくることもあります。「そんなひどいことを言う人がいたのですか、ごめんなさい」と謝ると、「いえ、私の日本語が下手だったから、仕方ないです」と言われます。いじめられてもなお、自分たちのせいだと言う彼女／彼らに対する申し訳なさに、私は言葉を失うことも、しばしばです。

いじめは「仕方ない」のか

私は、2022年秋から「日本と出身国を往来する移民の子どもの社会再統合を見据えた言語教育—母語・公用語の補習教室を地域の『多文化共生』の拠点に」というプロジェクトを実施しています。その一環で、親の呼び寄せにより日本で暮らすことになった外国出身の子どもや、日本で生まれ育った後、出身国に帰国した子どもたちへの聞き取りをしています。ネパールに戻った

子どもたちは、日本で好きだった食べ物や音楽、スポーツ、学校から出かけたキャンプのことなど、懐かしそうに日本語で話してくれます。日本から持ち帰った本を見せてくれる子や、YouTubeで見ている日本のアニメを教えてくれる子もいます。日本で苦労して身に着けた日本語力を維持しようと、帰国してからも、日本語能力試験を受験するために頑張り続ける姿を見ると、日本が嫌いになって帰ったわけではないのだと感じます。

しかし、残念なことに、日本では、肌の色や日本語ができないことを理由にいじめられた経験がある子がほとんどでした。宗教上、食べられないものがあるため、お弁当を持参した子は、「カレー臭い」と言われて傷ついたそうです。母親に、にんにくやしょうが、スパイスで味つけしたものを弁当に入れないでほしいと頼んで、家庭で食べているものは持って行かなかったと話してくれた子もいました。

バングラデシュ出身の両親と暮らす中学生のお宅でも話を聞きました。日本生まれで流暢に日本語を話す彼女は、料理をするのが大好きで、部活動では「家庭科クラブ」に入っており、学校生活において特に問題はなさそうでした。聞き取りを終えて、彼女のお母さんに勧められるままに、ベンガル料理をごちそうになりました。「家庭科クラブでベンガル料理を紹介したことはありますか」と尋ねたところ、彼女は首を大きく横にふりました。一呼吸して「いじめられていたんです」と、小学校



親が日本で働いている児童が多いネパール・バグルン郡の学校

時代の経験を話してくれました。入学したばかりの頃、肌の色や名前を理由にからかわれていましたが、保育園に通っていなかった彼女は日本語がほとんど理解できず、いじめている子どもたちの言っていることが、わからなかったそうです。小学3年生になる頃には、日本語の授業にもついていけるようになり、いじめられることはなくなりました。彼女も、いじめは「日本語がわからなかったから仕方ない」と言っていました。

日本語ができないことを理由に、人をいじめたり、バカにしたりしてよいはずがありません。「日本語がわからない外国人は、いじめられても仕方がない」と、外国にルーツがある人たちに思いこませているのは、彼らを受け入れている私たちホスト社会です。「仕方ない」という語りを放置してはいけな

いのではないのでしょうか。

当事者に負担を強いる言葉の壁

近年、情報発信の多言語化は進められていますが、自治体などの場合、発信する際の文書の翻訳のみで、当事者の質問を受けつけるための通訳サービスは極めて限定的です。「言葉の壁は、当事者側で解決すべき」という発想が根強いと言わざるを得ません。

私の職場の近くに「日本語がわからない人は、自分で通訳を連れてきてください」という貼り紙をしている病院があります。アメリカ、イギリス、オーストラリアなどでは、医療通訳は、医療従事者がミスを避けるための手段として理解されており、患者が医療通訳のコストを負担することはありません。一方、日本では、電話やオンラインサー

多文化共生は 「人権」や「平等」が保障されてこそ



日本からネパールに戻った子どもと保護者への聞き取り

ビスによる医療通訳が普及し始めたとは言え、患者に通訳の手配や費用負担を求める病院もあります。

日本の社会保障制度は、国籍を問わず「国民」と同様の社会保障を提供する「内外人平等の原則」に立っています。外国籍住民も国民年金や国民健康保険に加入し、保険料を納付することが求められています。もちろん、収入が少ない場合など、保険料を払うことが難しいときは保険料を払わなくてよい特例はありますが、日本語力などは関係なく、社会保障の支え手として平等に負担を求められています。

しかし、保険料が未払いの場合の督促は、日本語だけで通知される自治体がほとんどで、書類が読めずに放置し、滞納してしまった人は少なくありません。また、健康保険に加入していれば、自治体から健康診断等のお知らせが届きますが、これも、日本語だけで通知されるために、外国籍住民の受診率は低いのが実状です。応分の負担を求めるなら、サービスも平等に受けられるよう、多言語で情報提供を

すべきではないでしょうか。

「多文化共生」から「人権保障」へ

2006年に総務省が発行した「多文化共生の推進に関する研究会報告書」は、多文化共生を「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと」と定義しています。それから20年近く経ちましたが、「日本語ができない外国人はいじめられても仕方がない」、「言葉の壁は、当事者側で解決すべき」という発想から抜け出せないのは、この定義に「人権」や「平等」という概念が入っていないからではないでしょうか。

日本の自治体等が推進している「多文化共生」は、国際規範でうたわれている移民の人権保障とは別物と言わざるを得ません。移民は、料理(Dish)、服装(Dress)、踊り(Dance)、音楽(Drum)に象徴される「多文化共生」イベントの飾り(Decoration)として利用される存在であってはなりません。



『厨房で見る夢：在日ネパール人コックと家族の悲哀と希望』の書影

文化的な違いを認めるといった多文化主義だけで、対等な関係にはなれません。日本語の運用能力に関わらず、いじめられたり、暴力の対象になったりしないよう、人権を守るという発想が必要です。人権は、すべての人が、いつでも、どこでも、同じように持っているものと認められるものです。日本語が上手になった人だけが「ご褒美」として享受するものではないはずです。自治体の住民サービスや社会保障もまた、日本語力に関わらず、平等に利用できるものであるべきだと思います。

日本を選んで来てくれた人たちが、「日本語ができないからいじめられても仕方がない」と、不当な扱いを我慢するのではなく、「日本語ができなくても大丈夫」だと感じて暮らせる社会を目指したいです。



田中雅子
(Tanaka, Masako)

2009年までNGOやJICA、日本赤十字社などを通じて南アジアと西アフリカで開発援助の実務や社会運動に関わる。2010年より日本で大学教員として働きながら、災害人道支援や外国人の相談援助に従事。研究者としては、人の移動が移民とその出身国にもたらす影響、特に移住をめぐる子どもや家族の課題を調査している。近著に『厨房で見る夢：在日ネパール人コックと家族の悲哀と希望』（ビゼイ・ゲワリ著、田中雅子監訳・編著、上智大学出版、2022年）。

あちこち日本語ご紹介

千葉県 四街道市

東京まで1時間、里山に縄文遺跡が点在する街、四街道の日本語教室

四街道市国際交流協会

会長 小島英俊

千葉市の北隣に位置する四街道市は、総人口が約9万6千人、県内では中規模の市です。

明治後期から第二次大戦終結までは「陸軍野戦砲兵学校」が置かれ、軍都として知られていましたが、戦後、入植者により農地開拓が進められ、農産物としては梨が有名です。東京まで快速電車で1時間と、通勤圏にあることから、今はベッドタウンとしての性格が強くなりました。

アフガニスタンからの在住者

市内の外国籍市民数は約3500人、総人口の3.6%を占めています。大きな事業所が無いにも関わらず、外国人数がとても多いのですが、これには理由があります。それは約1100人ものアフガニスタン人が暮らしているためです。

アフガニスタン人の中でも、本国では9%の少数民族であるハザラ人がほとんどで、彼らはイスラム教の少数派であるシーア派故にタリバンから度々迫害を受けている人達です。

彼らのほぼ全てが中古自動車部品業に関わっています。2010年代半ば頃から家族の呼び寄せが一層活発に

なり、2015年には外国籍では中国を抜いてトップになりました。そして2021年8月のタリバン政権復活の翌年以降、約400名が四街道市に移住して、1000人を超えるまでになりました。

四街道市での暮らし

四街道市は地価が安く、賃貸でも購入でも広い土地を入手できること、高速道路のICが近く、横浜港まで商品を積んだコンテナを運びやすいこと、更にコンテナの送り先であるUAEに行くにしても成田空港が近いということで、たいへん都合のよい場所です。

彼らの家庭はどの家も大家族で、子供が4、5人いますから、アパート住まいは窮屈ですが、襖などは取り払って大部屋とし、全面に絨毯を敷いてリビングとしています。兄家族、弟家族合わせて13人が暮らしているところもあります。食材の購入については、野菜類は直売店のような安い所を利用し

ますが、肉類はハラル食材店で買います。学校給食についてもハラルではないので弁当を持たせるため、主婦の家事はたいへんです。彼らの日本語力については、夫は中古車オークション会場等で日本人と話をすることがあり、簡単なコミュニケーションであれば可能ですが、妻の方は話す機会も少なく、そのため子供の学校に行っても気おくれがするようで、ママ友もできず、苦勞するようです。

日本語教室の様子

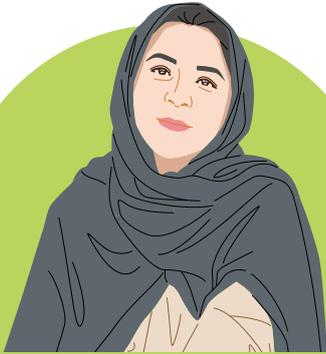
四街道市国際交流協会では、現在、毎月第1～第3火・水・金の午前または夜に日本語教室を開き、主にアフガニスタン女性たちの支援をしています。小さい子を持つ母親でも参加しやすいように、幼児連れで教室に参加できるようにし、幼児を皆で見守りながら授業をすることもあります。ここ1年の参加者は約35名で、15名ほどのボランティア講師で支援を行っています。日本語の指導のほかに、買い物の付き添いや妊婦検診の送迎と言った教室外のサポートに奔走することもあり、そこから家族ぐるみの付き合いが始まった講師もいます。彼女たちがコミュニティで孤立しないよう、今後も活動に力を入れていきたいと思っています。



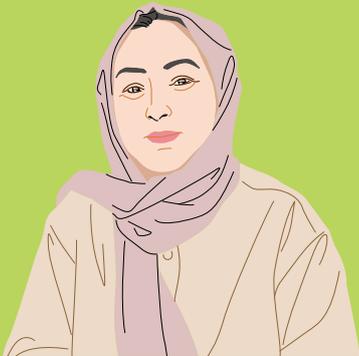
アフガニスタン女性の日本語クラスの様子

みんなの“日本語View from the Other Side”

このコラムでは、学習者や日本語に携わる方の視点から話題をお届けします



アーミナ 1985年生まれ 2017年12月来日



マディナ 1982年生まれ 2018年8月来日

illustration 内山洋見

— 来日のきっかけは？

アーミナ 15、6年前から日本で仕事をしていて夫に呼び寄せられ、10歳、8歳と幼児2人を連れて、アフガニスタンから来日しました。初めての日本で言葉が分からず、成田空港の入管手続きにとっても時間が掛かったのを覚えています。子供達は久しぶりに父親に会える喜びと、日本で家族一緒に暮らせる楽しみの方が勝り、アフガニスタンを離れる淋しさはなかったようです。

マディナ 主人が22年前に単身で中古車解体業の仕事で来日。その後長男も合流して、仕事が安定した所で子供3人を連れて来日しました。狭い

最初の目標は「日本語と運転免許」 夢の実現に向かって 進んでいきたい

アパート生活でも、家族一緒に暮らせる喜びを感じました。ただ、言葉の壁は厚く、友達もなく、最初はホームシックにもなりました。そんなとき、隣のアパートに住んでいたアーミナさんと知り合いになり、いろいろと助けてもらいました。アーミナさんとはどこに行くにも一緒に、まるで姉妹みたいと周りから言われるようになるくらい、仲良くなりました。

— 日本語学習の様子を教えてください。

アーミナ 主人は独学で日本語を少し話せるようになっていましたが、主人以外は誰も日本語が話せず、買物、病院、市役所の手続き等々大変でした。それでも四街道には既にたくさんのアフガニスタン人が住んでいて、いろいろな情報を教えてくれたのでとても助かりました。子供達は小学校や幼稚園に通うとすぐに日本語を覚えました。が、専業主婦の自分は日本人との交流の機会もなく、全く話せなかったため、翌年から四街道市国際交流協会の日本語教室に通い始めました。そこにはベビーカーに幼い子供を乗せて30～40分もかけて日本語教室に通う同世代の主婦が大勢いました。教室はアフガニスタン人の交流の場となり、また、

母国で小学校の途中までしか行けなかった自分にとって、勉強の楽しさを実感することもできました。もっと、もっと勉強して早く日本人と話がしたいと思いました。今では日常会話もだいたい理解出来るようになりました。

マディナ 日本語教室もアーミナさんと一緒に通うようになり、今では『みんなの日本語 初級I』を使って勉強しています。教室のボランティアの先生方の要望でアーミナさんと一緒に日替りシェフとなってアフガン料理を振舞ったこともあります。皆さんからとても美味しいと喜ばれ嬉しかったです。

— 夢は何ですか。

アーミナ 念願の自宅も購入し、運転免許も取得と、夢が一つずつ叶えられています。子供にも手がかからなくなり、今は日本全国を旅行するのが夢です。

マディナ 運転免許を取りたくて10回以上挑戦しました。失敗の連続で涙したことも度々でしたが諦めず、今年の3月ようやく取得することができました。もうどこへでも自分で運転して行けるので楽しいです。これからはもっと日本語が話せるようになって、日本人の友達をたくさん作りたいです。そして仕事を見つけて働き、大きな家に住むのが夢です。

『日本語教師をめざす人のための スモールステップで学ぶ 音声』

池田悠子 著

B5判 181頁 2,200円(税込)好評発売中 *電子書籍は8月上旬配信開始予定



日本語教員試験対策だけでなく、教育現場での音声指導に役立つ一冊

インターカルト日本語教員養成研究所、日本東京国際学院 非常勤講師

池田悠子

『音声に関わる知識と指導法』の重要性

「日本語は簡単だし、日本人だから日本語なら簡単に教えられる」という声を聞くことがあります。しかし、日本語を母語としない人が、「いくつありますか」というところ、「いくちゅありますか」と発音したので、直す必要が生じたといいます。そこで、「いくつ!いくつ!」と繰り返すだけだとしたらどうでしょうか。この方法では非母語話者は困惑するばかりです。発音する場所(調音点)をきちんと教えることで、日本語らしい発音へと導くことができます。

また、「あなたは、このことを知っているでしょう↘」と文末のイントネーションを上昇させると質問文になりますが、「知っているでしょう↘」と断定を意味する下降イントネーションにすると、場合によって詰問したように受けとられかねません。音声に関わる知識と指導法は、語学指導において非常に重要な役割を担っています。

本書の特徴

本書は音声に関する基礎知識を「日本語の音の単位と仮名」から「アクセント」「韻律(プロソディ)」「音素と音声記号」「音声器官と母音」「子音—1」「子音—2」「特殊拍」「音韻」に至るまで一歩ずつ着実に、スモールステップで学べるように構成してあります。

例えば、日本語の平仮名と片仮名は音節文字としての役割を持っています。音節文字であるということは発音の単位であると言っても過言ではありませんが、1文字がどのような構造で、どのような音素から成り立っているのかを理論的に学ぶことによって、日本語学習者の日本語の発話をより良い方向へ指導することができるようになるはずです。

音声はウェブサイトから聞くことができます。紙書籍と電子書籍を揃えましたので、各自の学習環境に合わせて自由に選択できます。

構成と学び方

各章の初めに「実力診断クイズ」を設けました。自身が「理解していることはなにか」「なにをここで学ばよいか」の整理をすることが狙いです。

本題で学ぶべきことを明確にしてから、「学習項目の解説とワーク」で、学習項目についての解説を読み、その項目に関するワークに取り組みます。解説とワークは、基本的に学習項目ごとに見開き2ページで構成しましたので、どのくらい理解できたか、どのくらい知識を得たかをその都度確認して、獲得した知識を定着させ、指導に役立ててください。

最後に、各章末の「実力診断テスト」でその章ごとの知識や指導法が理解できたかどうかを測定します。

本書は1992～2023年の日本語教育能力検定試験がどのような観点で出題されてきたのかを分析し、理論的な解説は無論のこと、各章の「実力診断クイズ」「ワーク」や章末の「実力診断テスト」にそれらの観点で作成した応用問題も盛り込みました。

これらの問題を解くことは、新しい日本語教員試験の受験対策となります。また、それらは「日本語教育の現場でどのような問題が自分の未来に起きるのか」ということを前もって知ることにつながります。学習者の発音やイントネーションを直す必要が生じた際の「指導のヒント」も本書の問題の解答・解説から見つけることができるでしょう。

本書にて日本語の理論を学ぶとともに日本語の美しい響きにも触れていただけましたならこれは無上の喜びです。

『日本語教師をめざす人のための スモールステップで学ぶ 教授法』

久保田美子 編著

安藤暁子・木下謙朗・中島喜代美・原彩子・堀内貴子・丸山真貴子 著

B5判 160頁 別冊24頁(予定) 2,200円(税込) 10月発行予定

教授法の基礎知識を身につけるために

早稲田大学日本語教育研究センター教授

久保田美子

今年度から、日本語教員になるための国家試験が始まり、登録日本語教員の制度がよいよ始まります。国家試験では、教授法に関する知識も問われます。本書は、日本語教師をめざす人が、教授法に関する本として、最初に手にとり、どのような知識が必要なのか何を学べば良いのか、その概要を知り、さらに学び続ける一歩となるよう作られました。

本書の特徴

本書は、日本語教師をめざす人が、教授法の知識を、少しずつ広げ、少しずつ身につけていけるようにつくられています。初めて教授法を学ぶ人でも、負担なく一つ一つ学びを進めていくことができます。本書は全部で8章あり、その内容は、「第1章 教師と学習者」「第2章 外国語教授法」「第3章 日本語教授法」「第4章 コース・デザイン」「第5章 教材分析・開発」「第6章 授業実践と振り返り」「第7章 中間言語分析」「第8章 評価法」となっています。日本語教師にとって必要とされる教授法関係の分野を全てカバーしています。

構成と学び方

各章の始めに「キーワード」のページがあり、キーワードの意味が理解できているかどうかをチェックします。初めて見るキーワードもあるかもしれませんが、これまでの経験や他の言語での学習の経験など、いろいろな知識からことばだけは聞いたことがあるというものもあるかもしれません。まずは自分の知識を○(よく知っている)、△(そのことばを聞いたことはあるが、知識が曖昧である)、×(全く知らない)に分けて印を付けます。

章の下位にある各項目は、第1章をのぞいては5つから8つの項目に分かれ、基本的に1ページの「解説」と1ページの「問題」で構成されています。1ページ程度の内容ですから、無理なく学ぶことができます。各章の最後には実力診断テストもついています。各章の勉強が終わったら、もう一度キーワードを見て、どのぐらい○の項目が増えたかを確認します。そしてまだ理解できていないところなどは、もう一度解説を読んだり、さらに新しい本を読んで知識を深めたりします。

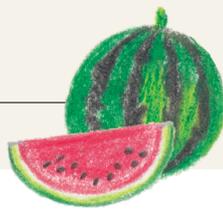
2021年、文化庁は「日本語教育の参照枠」をとりまとめました。この参照枠はヨーロッパ言語共通参照枠(Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment: CEFR)を参考にしています。このCEFRの考えは、これまでの日本語教育の教授観に新しい教育理念をもたらしました。これまでの言語知識中心の考え方に対して、Can-doと呼ばれる「ことばを使って何ができるのか」という言語活動を中心とした教え方を基本としています。このような考え方のもとで、教師はどのように授業計画を立て、授業を実践していけば良いのか、これまで、初学者に対してわかりやすく書かれたものはあまりありませんでした。本書では、そうした新しい理念のもとでの教え方に関しても触れています。

本書をきっかけに、日本語教育の世界の楽しさと奥の深さに触れ、日本語教師としての一歩を歩み始めることを願っています。

シリーズラインナップ

『日本語教師をめざす人のための スモールステップで学ぶ』

- 文法 ● 音声 ※『音声』の電子書籍は8月上旬配信予定
- 教授法(10月発行予定)



日本語教師をめざす人のための **スモールステップで学ぶ 教授法** 2,200円 10月発行予定

セミナー

スリーエーネットワーク主催 オンラインセミナー

第一部 「敬語」を「待遇コミュニケーション」として捉えるといろいろなことが見えてくる —『日本語教師が知りたい敬語と待遇コミュニケーション』の世界—

第二部 「伝えたいこと」に焦点をあてた敬語の聞き取り教材の使い方とポイント —『聞いて慣れよう 日本語の敬語』を使って—

講師：坂本恵先生、徳間晴美先生

日時：9月7日(土) 13:00～16:15
(12:40受付開始)

会場：オンライン (Zoomを使用)

対象：日本語学校、専門学校、大学等で指導されている日本語教師

定員：200名

締切：9月3日(火) *定員になり次第締切

参加費：無料

主催：スリーエーネットワーク

日本語教師に必要な音声の基礎知識を身につける —『日本語教師をめざす人のためのスモールステップで学ぶ音声』を使って—

講師：池田悠子先生

日時：9月21日(土) 10:00～12:00
(9:40受付開始)

会場：オンライン (Zoomを使用)

対象：日本語教師養成講座受講生・講師、日本語教師、登録日本語教員試験の受験を考えている方など

定員：250名

締切：9月17日(火) *定員になり次第締切
準備物：『日本語教師をめざす人のためのスモールステップで学ぶ音声』

*対象書籍をお持ちでない方は、紙または電子書籍(税込2,200円)のご購入をお願いします。

参加費：無料

主催：スリーエーネットワーク

申込み 8月1日(木)

12時より受付開始



*お申込みいただきますと、

kouza@3anet.co.jpより、自動返信メールが届きます。電話、FAX、e-mailでの申込みはお受けしていません。恐れ入りますが、ご了承ください。

問合せ スリーエーネットワーク講座係

TEL：03-5275-2722

e-mail：kouza@3anet.co.jp

お知らせ

第63回 外国人による日本語弁論大会 出場者募集

日時：10月19日(土) 13:00開始

会場：小田原三の丸ホール(神奈川県小田原市本町1丁目7-50)

応募受付期間：6月1日(土)～8月15日(木)

主催：小田原市、独立行政法人 国際交流基金、一般財団法人 国際教育振興会
大会ウェブサイト：

https://www.iec-nichibei.or.jp/iec04_2.html

問合せ：一般財団法人 国際教育振興会「外国人による日本語弁論大会事務局」

TEL：03-3359-9620

e-mail：speechcontest@iec-nichibei.or.jp



「教材紹介動画」公開中

当社ウェブサイトで著者による教材をご紹介する動画を公開しています。

・「JLPT文法N3 ポイント&プラクティス」

①本教材の特長、構成、②本教材の使い方、③実際の場面で文法を使うための練習

実場面に即した会話練習を行うと

- ・「習った文法が使える！」と学習者が意識する
- ・「実際に使ってみよう！」という意欲につながる

本教材を使用する場合は、「声に出して言おう」を応用すると便利



表紙のイラスト

「あばれ祭」は、石川県能登町で毎年7月上旬に開催されます。高さ7m、40数基のキリコ(奉燈)が大松明の火粉の中を乱舞します。また、御輿を海や川、火の中に投げ込んだり、壊したりして神様を喜ばせるという勇壮なお祭りです。

季刊ジャネット

Ja-Net No.110

スリーエーネットワークという社名は、アジア(Asia)、アフリカ(Africa)、ラテン・アメリカ(Latin America)の三つの地域をネットワークでつなぎ、相互理解と友好促進を図ろうという趣旨をシンボライズしています。

2024年7月25日発行

● 発行人 藤崎政子
● 発行所 (株)スリーエーネットワーク
Ja-Net 編集室

〒102-0083 東京都千代田区麹町3-4

トラステイ麹町ビル2F

TEL：03-5275-2722 FAX：03-5275-2729

E-mail：sales@3anet.co.jp

<https://www.3anet.co.jp/>

● デザイン パーシック 畑中 猛
● イラスト 竹永絵里 (P.1, 8)
● 印刷 (株)マイナビサポート
© 2024 by 3A Corporation
Printed in Japan (禁無断転載)

「Ja-Net」をご希望の方はお名前・ご住所・ご所属を編集室までお知らせください。無料でお送りいたします。次号は2024年10月25日発行予定です。